

大豊村の概要

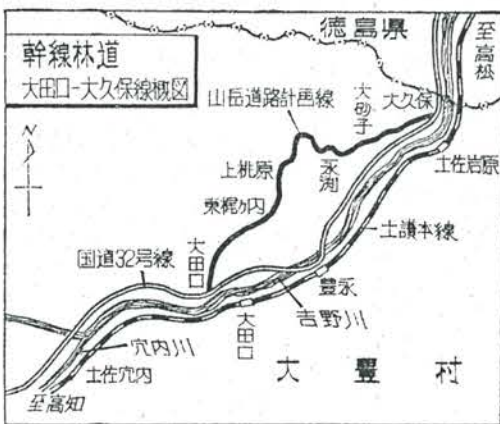
位置 東経 133度37分 北緯 33度56分
面積 320.54平方キロ 東西 32キロ
南北 28キロ 部落数 88
人口 12,746 男 6,093 女 6,653
世帯数 3,737 (8月末現在住民基本台帳調)



昭和46年9月30日発行

全世帯配布

編集 館報大豊編集委員会
発行 大豊村中央公民館
印刷 高知印刷株式会社



この道は山の中腹を東西に結ぶ幹線道路として開設するもので、村の振興計画に取り上げ、国や県に対して事業の推進を強く働きかける一方、地元においても計画により、西寺七郎八千円、事業の内訳は七分六分が国と県、二分四分が村費で、用地の提供が地元負担となります。本年度分としては千三百万円が認められ、二百十戸の工事が進められます。

起工式には溝淵知事、西岡県議、門田村長ら村執行部、寺石議長はじめ村議員、地元民ら約八十人が出席、神事、その後、門田村長、工事業者がクワ入れをして工事の安全を祈りました。

この幹線林道沿いには約二千坪の森林資源が眠っており、沿線六戸の人々が

幹線林道として着工

大田口—大久保線

多年の懸案であった大田口—大久保線が幹線林道として、着工のはこびとなり去る八月十四日の午後、大田口の工事現場に多数の関係者が集まり、盛大な起工式を行いました。この幹線林道が完成しますと、山林資源の開発はもとより、地域住民の生活道としても極めて利用度の高いものとなり、地区の発展に大きく寄与するものと期待されています。

炎天下に道路作業

久寿軒校下の美挙

知事さんおねがい

地区民の総出による久寿軒校下道路愛護奉仕作業で、八月八日の日曜日に、校下の三部落長、校下約二百五十人の方々が参加して行なわれました。

↑写真は久寿軒校下道路愛護奉仕の現場に向かう途中、川線(延長七、〇六六)苦をねがう溝淵知事、西岡県議、門田村長

故石川政市翁



この道を利用できるように、この道を起点とする村道(大田口—通称石川道)が、



クワ入れをする門田村長

回(毎年)実施しているもので、この日は溝淵知事、西岡県議、門田村長らも現場に出向いて作業の状況を視察し、その労苦をねぎらいました。

このあと、地元の話合いの場をもち、地区民から、路面の整備、村道の延長等についての陳情が行なわれ、なかでも有意義な一日の奉仕作業を終りました。

くらしを守る“威力”

1、2位ともに豊永分団 夏季消防演習大会

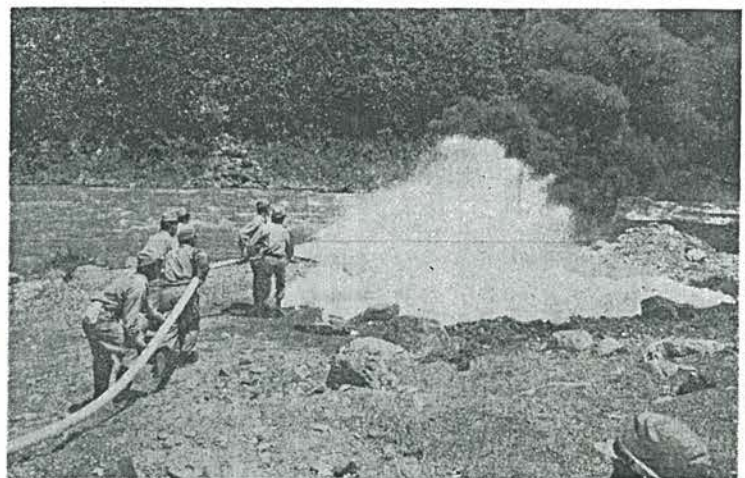
恒例の大豊村夏季消防演習大会は、八月八日村内七分団(十四部)から、三百余名の団員が参加して行なわれました。

この日、涼しい服装に身をかわめた団員達は、大田口小学校校庭に勢ぞろいして堂々の分団行進、服装美、機械器具の点検、功労者等の表彰式を行ないました。

午後は会場を豊永の河原に移して、二十台のポンプがエンジンをうならせて一斉放水を行なったあと、油火炎等に対する高発泡消火の実験が披露され、山村に消防の必要が強く認識されました。

高知県消防協会長表彰(功労章) 分団長佐野幸雄、副分団長上村美昭、部長三谷幸男、班長上村実、団員上村定親。(消防協力者表彰) 前野武盛。

高知県消防協会長表彰(功労章) 部長大家康男、岡崎亀義、班長三谷幸雄、杉本信量、団員部築広、下村亀喜、下村昭雄、長野性利。



最強力を誇る高発泡消火実験



見ごとな一斉放水

大会宣言を採択

第六回 安村民会議

第六回、大豊村交通安全村民会議は、九月二十五日開会。中央公民館で秋の交通安全運動の日を目前に控えて、交通事故の撲滅を期するため、次の宣言を採択して午後三時過ぎに閉会を終りました。

一、歩行者、特に子どもと老人を交通事故から守り、併せて自転車事故の防止並びに飲酒運転の絶滅を図る

10月は固定資産税の第三期分の納期に当たっております。

お忘れにならないよう、はや目に納めましょう。

(税務係)

タバコは村内の販売店で!

大豊村で昭和45年1月1日から同年12月31日までの一年間に2,150万本が消費され、タバコ消費税1,500万円が大豊村に納められ村財政を潤おしました。

今回タバコ消費税の算定の基礎となる額が増額されました。

皆さんどうぞタバコは村内の販売店で買い求め下さい。

ついで、婦人会などの熱心な応援で、日頃熱心な活動を行なっている大豊村消防分団の訓練成果を競う円盤おくりの競技を展開、次の成績をおさめました。

一位 豊永分団 戸部 二位 豊永分団 戸部 三位 豊永分団 戸部 四位 豊永分団 戸部

当日の功労者等、被表彰者は次の通り。

豊永分団、田内徳信、森正樹、松村佳景(功績章) 班長小笠原利雄、上村延雄、団員豊永孝太郎、近藤清市、伊藤伸一、田内中、池添繁政、中村孝也、坂本進、依光和一、松下健一。(退職消防団員) 秋山久重、松本正一、徳弘進、中西行、岡林茂利。

簡易保險

午後三時から、 十一月二十六日(金曜日) 豊永局の電話が「ダイ	して二十五年間(昭和五年四月一日以前に生まれた人は年令に応じ二十四年から	1月 ◇成人式です の届	加入したら20才になった人
	2月	◇年金給付の支払い月です	受けている人が現況の 料の整理 納期限
(1)相手方が「ダイヤル式」 ができます。	い下さい。	3月 ◇年金を納め の届 納め忘れ 第4期	十年に短縮、保険料を納めてなければいけません。 特に、明治四十四年四月二日から昭和十四年以前に生れた人で、他の年金制度に入っていない人は、今すぐ国民年金に入って、保険料を納めないと、将来老齢年金がもらえなくなりますのでご注意ください。 こうした人々は勿論のとと二十才になった人、厚生年金などを脱退した人などで、まだ国民年金に入っていない人は今すぐ役場住民課福祉係年金担当者までお問い合わせ下さい。

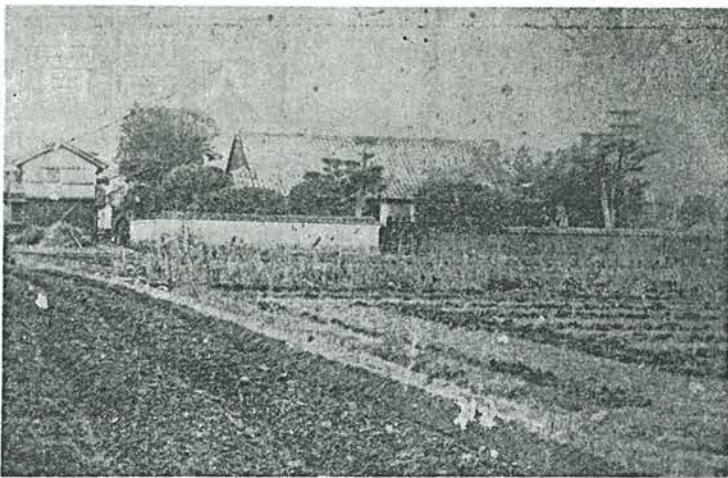
長州 富永有隣と土佐 志士

(4)

県文化財専門委員

橋詰 延寿

長岡郡大豊村大久保(大
窪とも書いた)五五一番地 長州藩陸軍少佐富永有隣先
桑名啓三郎さんのところに 生土佐藩に亡命豊永郷大
富永有隣が住んでた。真草 田に隠れての傑作也
小判紙二十四枚でその表紙
には次の通りある。



香美郡野市町の大石圓の邸宅
富永有隣は明治三年土佐に潜伏この大石邸を中心
にして同志と連絡していた。写真は昭和十一年のも
ので山口県立玉木俊雄氏提供のもの

東豊永発電所の 歴史と現況について

東豊永発電所

福留 亮

高知県電氣局が設立され
たのは大正の初期ですが、
その電氣局の水力発電所と
しては最も大規模な設備を
もつ東豊永発電所が使用
地の二案があったよう
の認可をうけ産声をあげた
のは関東大震災のあった大
正十二年八月で今から約四
十八年前のことです。

大正十二年といえは門田
村長が五才前後の頃です。
発電所建設工事のため主
要なメンバーは殆ど東京か
ら山間僻地の当地へ来まし
た。そのため東京文化が一
度に移入され、衣食住に大
きな変化をおよぼしまし
た。当時洋服を着た人は村
長、駐在所、校長先生でし
たが、発電所の工事が始ま
ると小学生に洋服を着せ
て、草履がゴム靴となり、
風呂敷包が鞆に早変わりし
ました。

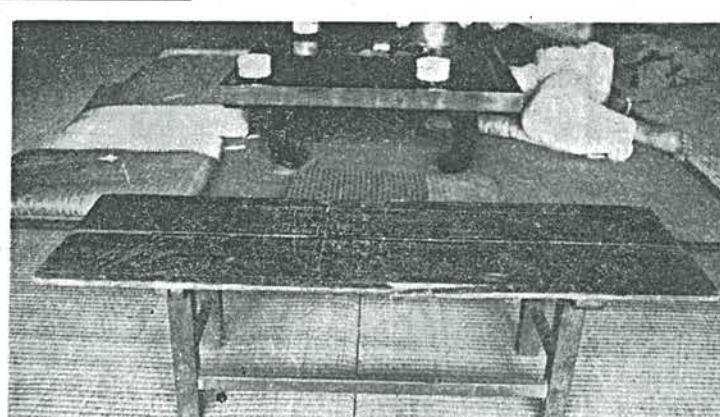
食生活でも砂糖が使用さ
れ始め、大きいラッパ付の
落着機が来たのもこの頃
です。写真を写してや
ます。



大正十一年三月ま 谷泉水先生(中列右から三
人目)の当時、南大王の
ため草履はき見えな
く、写しは正十五年度
「み」を着て学校へ来
た小学校卒業生と当時の三
ました。(三谷泉水先生談)

東豊永発電所は大正十三
年十二月本使用認可とな
り、高知県電氣局より昭和
のなかの用水の確保、
今回は歴史について一応
です。(つづく)

さきにお知らせ致しました、「第一回嶺北総合美術展」の審査員
の先生方が次の通り決まりました。



桑名正臣氏祖父桑名正仁が8才の時富永有隣に習字を習った時の机

富永有隣は長州藩士で、大石
圓は、香美郡野市町(当時
は村)の人である。通称は
弥太郎、はじめの名は元敬
といた。長岡郡の旧臣
の学にすぐれ、また武技を
よくした。果敢明敏、土佐
勤王党主に武市半平太を推
しその参謀的な存在であ
る。

明治十年(一八七七)大
石圓は長州志士富永有隣を
隠匿した嫌疑で一時伊予松
山の獄に入ったことがあ
る。その獄中作の一首。
いざいざとめきすてさる
か玉くしげ二名の鳥の浪の
濡れ衣がある。彼は正三
五年(一九一六)十月三十
日没、八十八才、彼の遺徳
は野市町小学校前にあつ
たが町役場が移転と共に北
方の中学校の東隣り公民館
の敷地に移築した。富永有
隣は遺徳の一節もあるので全
介しよう。(以下次号へ)

第一回嶺北総合美術展 審査員決まる

- ▽洋画 筒井広道先生(高知大学教授)
- ▽日本画 高野史静先生(本山町)
- ▽書道 福原云外先生(追手前高校教諭)
- ▽彫塑 (未定)
- ▽写真 浜田豊繁先生(高知新聞写真部長)

芸術の秋、ふるって出品下さい。(出品は十月十七日に中央公民
館へ)

敬老の日 はなとりに興ずる

九月十五日の敬老の日か
ら、二日間の敬老会を
行ない、村に暮らす老
人の充実を考える。など。
大豊村には、六十五才
以上の人口二千三百五十九
人のうち、七十才以上の方
が千三百六十三名(男六百
二十四名、女七百三十九
名)本年米寿の方が男二
人、女四人、八十九才以上
の方が男九名、女十五名が
おられます。これらの方々
の中で最年長者は、和田の
都築登喜三さん九十六才で
す。そして村内の老人クラ
ブは十団体、七百六十四名
となっております。クラブ
の名称と代表者は次の通
り。

- 東豊永北部延寿会 小林秋義
- 東豊永南部延寿会 田村万石
- 西峰福寿会 門田仁一
- 大砂子明治会(旧校下) 中西幸馬
- 岩原門和会(旧校下) 岡崎啓
- 川口高砂会 木山茂義
- 西豊永豊寿会 西村盛
- 大田口栄寿会 小笠原茂盛
- 大杉長寿会 代理 宮内正男
- 天坪長寿会 西岡茂義
- 右団体の連合会長 門田仁一
- 副小島清利、監事 西岡茂、
同西村盛

◆出来あがりの館報を見る
と、いつもながら「後追
い」のお知らせに終って、まさ
に後報の感。
◆もつと計画中の行政やそ
の他を広報したいが、思う
ようにならないのが世の中
のつね。
◆村民の皆さんは「知る権
利」をもっているが「読ま
ない自由」ももっている。館
報への御意見をお聞かせ下
さい。(中西)

老人のおかれてる生活
環境をみんなで点検し、住
みよい地域づくりを進め
る。老人の健康とくらしを守
る運動を進める。
老人にふさわしい役割と
さい。